

読書のすゝめ

その2

H 31 4 / 9

新任者紹介①

春は出会いと別れの季節です。離任される28名の先生方には、担任としてまた教科指導や健康面での指導、事務手続き等々、本当にお世話になった方々ばかりでした。先生方の新しいステージでの活躍とご健康を祈念しております。

そして、今年度は31名の先生方をお迎えすることとなりました。〈新〉銚田二高のために、どうぞよろしく願いました。

これから新任の先生方について、各先生の「おすすめの本」とともに、みなさんに紹介していきたいと思えます。

友部 哲久先生（保体・3年付）



「精霊の守り人」から「鹿の王」にいたる上橋菜穂子さんの本をすすめます。カタカナが多く、なじむまで大変でしょうが、「独特の世界」を、頭の柔らかいうちから味わえれば楽しいと思えます。



精霊の卵を宿す皇子チャグムを託され、命をかけて皇子を守る女用心棒バルサの活躍を描く物語。著者は2014年国際アンデルセン賞作家賞受賞。

高野 直子先生（2年1組副担任・農業）



「西の魔女が死んだ」 梨木香歩（新潮文庫）

私が高校生の時にこの本に出会いました。主人公のまいは、魔女修行のためにおばあちゃんの家に向かいます。ファンタジーという感じではなく、自分の中で魔女って何だろう、と考えながら自分の居場所を探すことや、自分の心の置き所を探します。目の前にある問題を、自分でどう決めるか。「十分に生きるために、死ぬ準備をしているわけですね」というフレーズがあります。今、この時を悔いのないように生きていく。これが生きている上で一番大切ではないかと思えます。これからの人生を自分のために生きていく人に、自分の人生に悔いのないように考えることを、この本で感じてもらえたら、うれしいです。



市村 忠先生（1年2組副担任・英語）



「銀嶺の人」新田次郎（新潮文庫）

日本には歴史に残る多くの登山家があります。加藤保男、加藤滝男、今井通子等々。

特に加藤保男は一回目のエベレスト登頂に失敗し、その際負った凍傷のため両足の全指、手の指の半分を失いました。若い頃現地から送られた彼の映像を目にし、何ともいえない気持ちになったことを今でも鮮明に覚えています。指を失った彼は、始め歩くこともできなかつたのですが、その体でついにエベレスト登頂に成功しました。銀嶺の人は今井通子の実話です。



私がもう一人の主人公若林美佐子が滑落死したマッターホルンに登るきっかけをくれた本です。そして今私は、今夏三度目のマッターホルンへの挑戦を準備中です。

※図書館内のPCにはすでに皆さんの名簿が登録されています。貸し出し可能ですのでご利用ください！

図書館にない本の購入リクエストも随時受付しています。

